

聖書日課 『からし種』 2019.9.8-9.15

<p>8日 (日)</p> <p>民数記 27章</p>	<p>「イスラエルよ、静かにして聞きなさい。あなたは今日、あなたの神、主の民とされた」(9節)。主の民に、語り掛ける声は、静かにしていないと聞き取れない、小さな声。その声を聞くために、静まって、主の御心を祈り求めたい。そして、主の掟には、わたしたちに今日もその命を精一杯生きるために必要なことが記されている。その掟と御心を心に留めて。</p>
<p>9日 (月)</p> <p>民数記 28章</p>	<p>「あなたたちは、わたしの食物である献げ物を、燃やしてささげる宥めの香りとして、定められた時に忠実にわたしにささげなさい」(2節)。日ごとの献げ物、安息日の献げ物、毎月の献げ物など、わたしたちの日常にちりばめられている神の恵みを振り返りながら、いつも主に感謝をささげることができる。主と伴なる日々を喜んで歩みたい。</p>
<p>10日 (火)</p> <p>民数記 29章</p>	<p>「第七の月の十五日には聖なる集会を開く。いかなる仕事もしてはならない。七日の間主の祝いをする」(12節)。定められた献げ物をしながらも、主の恵みに感謝することを忘れてしまう。イスラエルの民がエジプトから救い出されたことを思い出すための過越祭に心を向けて主の恵みに立ち返る大切な七日間。わたしたちも主の救いの業を覚える時を大切にしたい</p>
<p>11日 (水)</p> <p>民数記 30章</p>	<p>「人が主に誓願を立てるか、物断ちの誓いをするならば、その言葉を破ってはならない。すべて、口にしたとおり、実行しなければならない」(3節)。主に祈り求めていることは、簡単に破ることはできない。主との約束は、その言葉が成るまで、自分と主の間で結ばれた大切な契約。主との契約の尊さと主がその願いを心に留めてくださっていることに感謝して。</p>

聖書日課 『からし種』 2019.9.8-9.15

<p>12日 (木)</p> <p>民数記 31章</p>	<p>「すべて火に耐えるものは、火の中を通すと清くなる。それ以外のものは、清めの水で汚れを清める。火に耐えないものは、すべて水を通さねばならない」(23節)。神の清めは、火と水を通して与えられる。主のバプテスマも、霊と水をもって行われる(マルコ1:8)。イスラエルの民に約束してくださった清めの掟は、主イエスを通して私たちにも受け継がれている。</p>
<p>13日 (金)</p> <p>民数記 32章</p>	<p>「主が僕どもに語られた通りにします…わたしたちの嗣業の所有地は、ヨルダン川のこちら側になりましょう」(31-32節)。ガド、ルベンは、主との誓願を守り、主もその約束を果たされた。「あなたたちが口に出したことは実行しなさい」(24節)。言葉は力がある。言葉は人を生かし、励ます源にもなりえる。主の言葉を唇に乗せ、日々を過ごしたい。</p>
<p>14日 (土)</p> <p>民数記 33章</p>	<p>「モーセは主の命令により、出発した地点を旅程に従って書き留めた。出発した地点によれば、旅程は次のとおりである」(2節)。エジプトの国を出発したイスラエルの人びとと神との旅の行程を振り返る。それぞれの場所に、主の祝福が満ちあふれていた。私たちの日々の歩みにも、イスラエルと同じように、平和の主の恵みが備えられていることを覚えたい。</p>
<p>15日 (日)</p> <p>民数記 34章</p>	<p>「これは、あなたたちがくじを引いて、嗣業として受け継ぐべき土地である」(13節)。イスラエルの人々が与えられた土地の境界線が示された箇所。残念ながら、この境界線を「神のことば」として絶対化する信仰が現在そこに住んでいるパレスチナの人々を敵視し争いを生んでいる。「神のことば」は主イエスが体現された「平和」にこそ示されていることを覚えたい。</p>